

共同論説

プムズィレ・ムランボ＝ヌクカ UN Women（国連女性機関）事務局長
ガブリエラ・ラモス OECD 事務総長首席補佐官兼 G20 シェルパ
「私たちはジェンダー平等の潮目を変えることができるか」
(2020年4月9日、ロイター掲載、仮訳)

不平等な世界では、私たちが今日直面しているような健康危機は、女性に偏った悪影響を及ぼします。私たちは、リーダーたちに対し、応急対応にジェンダーの側面をしっかりと包含するため、今すぐ行動することを呼びかけます。

周りを見回すと、女性が COVID-19 パンデミックとの闘いの最前線部隊の大部分を占めているとわかるでしょう。彼女たちは、病人、高齢者、家族、そして、子供たちのケアをしています。世界的に、女性が病院の医療・支援スタッフの 70%、看護師の 85%を占めており、OECD 加盟国の医師の半数は女性です。女性は何百万人もの命を救う一方で、自分自身を感染のリスクにさらしています。さらに、世界全体で、長期的な介護の 90%と最大で男性の 10 倍の無償の家事労働が女性によって行われています。学校や保育・介護・福祉施設の閉鎖に伴い、COVID-19 の危機は、女性に対する無償ケア労働や家事労働の負担を増幅させるばかりです。しかし、これらの必要不可欠な献身は、しばしば認識されず、無報酬であることが多く、これは、女性が世界を救う一方で、結局は女性が最も苦しむことになるかもしれないことを意味しています。

健康、社会、経済の問題は相互に関連しています。女性は、潜在的に COVID-19 から生じる経済の低迷に関連した物質的な困難に、よりさらされる可能性があります。失業及び非自発的失業の大幅な上昇が、世界的に予測されています。多くの女性—その内、社会的保護をほとんど、あるいは全く受けられないインフォーマル経済で働いている7億 4,000 万人—が、今、深刻な経済的不安と選択肢のなさ直面しています。例えば、メキシコでは、主に女性である家事労働者の 99%が社会保障制度に加入していません。労働力の 85%を女性が占めるバングラデシュの衣料品製造業のように、一部の産業もまた、高まる雇用喪失リスクとともに、これらの複合的なショックによって、甚大で急速な打撃を受けることになるでしょう。こうした状況は、高齢女性にとっては更に悲惨です。なぜなら、G20 各国において、65 歳以上で一人暮らしの女性は男性の2倍となっており、多くの場合、適切な年金がありません。

メッセージはシンプルです。COVID-19 は全ての人に影響を与えていますが、女性には更なる影響を与えているということです。応急対応は、この男女間で非対称的な影響を考慮する必要があります。そうでなければ、私たちは、この社会における最も脆弱な人々、すなわち、外出制限により貧困ライン以下に転落するリスクがより高いシングルマザーのような人々に焦点を当てなかった、2008 年の金融危機への対応の時と同じ過ちを犯す危険性があるのです。

中小企業の状況を見てみましょう。これらの企業は苦しんでおり、経済活動の支援を必要としています。女性が代表を務める中小企業は、危機に対処するための負債比率が低く、自己資金への依存度が高くなっています。(注: 銀行借入や社債発行といった他者からの資金調達なしに、自分で対処しなければならないということ。)

COVID-19 の対応では、女性の懸念やアイデアに耳を傾ける必要があります。医療分野における女性の割合が高いにもかかわらず、指導的地位にある女性は極めて少ないのです。

これに加えて、パンデミックを封じ込めるための外出禁止政策もまた、ジェンダーに基づく暴力を悪化させています。平常時でさえ、世界中で、受け入れ難いほど高い3人に1人という割合で女性がDVに苦しんでおり、女性が被害者となる殺人事件のうち、38%がパートナーによって行われたものです。外出制限については、40億人を対象とした都市封鎖が緊張を高めており、一部の国では相談窓口への電話件数が30%以上増加していることが確認されています。しかし、暴力被害を受けた女性のうち、何らかの助けを求めたり、犯罪を報告したりする女性は、世界平均で40%にも満たないため、これは氷山の一角に過ぎない可能性があります。女性に対する暴力は、既に、全ての社会において、恐ろしく、かつ費用のかかるものとして蔓延しており、その損失は1.5兆ドル(約160兆円)と推計されています。この数字は、現在、事例が急増するにつれて上昇し、パンデミックの後も続き、私たちの経済に連鎖的な影響をもたらすと予想されます。

このパンデミックは、私たちの経済と社会を揺るがし、多くの変えるべきことを露呈させました。私たちは、何の教訓も学ばずにこの危機を克服すべきではありません。むしろ、私たちは、この危機を、女性が何十年にもわたり生きてきた不平等な状況を正すための機会として捉えなければなりません。私たちは、リーダーたちに対し、COVID-19の経済・社会的影響に対処するための短期的及び長期的な対策の実施に際し、私たちの社会に存在する不平等を減らすため、明確なジェンダーの視点を取り入れることを求めます。

私たちは、全ての政府に対し、本危機への応急対応の際に、女性の安全を最優先に据えることを強く要請します。それは、ジェンダーに基づく暴力によって影響を受けた女性を支援する全ての当事者を必要不可欠なサービスとして指定することを意味します。私たちは、女性が加害者から逃れるための緊急相談窓口とシェルターを更に必要としています。私たちは、多くの女性の医療専門家が私たちの命を救うために働き続けられるよう、保育所や高齢者のサポートを必要としています。私たちはまた、中小企業や自営業者に対する支援の拡充を検討することもできるかもしれません。そして、私たちは、各国内においても、先進国と新興国の間においても、教育的・社会的な不平等が深まるのを避けるための対策を立てなければなりません。

COVID-19の危機がこれらの不平等を拡大させ、女性に更なる打撃を与えるのを黙ってやり過ごすのはやめましょう。私たちは、ジェンダー平等の潮目を実際に変えて、危機から「跳ね返って更なる前進をする」ことができます。しかし、そのためには、今すぐに行動を起こす必要があるのです！